

挨拶

退任挨拶

前副会長

辻 村 英 雄



皆様，2年間本当にお世話になりました。2年前に副会長という大任を仰せつかった時，今までJIPAの集まりに一度も顔を出したことがなかった私にとっては，何をしていたのかも分からず，正直いって，苦痛だなという思いでした。しかし，最初に参加した総会後の懇親会の雰囲気が非常にアットホームで，そして集う皆さんが大いに飲み，語り，笑っている姿に接して，この協会は風通しがよく，素晴らしい連帯感を持っているんだなどの認識を強くしました。また，同時に会長に就任された竹中前会長のお人柄にも助けられ，この2年間，楽し

く有意義に過ごさせて頂きました。

今年の2月には第10回知財シンポジウムの基調鼎談にも参加させて頂くことで，社外人的ネットワークと知的財産の重要性を再認識することができたことも有益でした。

さて，先進国の経済緊縮や新興国の台頭が著しい現在の状況では，企業が将来成長し発展するためには，イノベーションが必須ですが，既存分野・技術の成長を支える所謂インクリメンタル・イノベーションだけではなく，ビジネスの構造自体を変えてしまう不連続で劇的なラディカル・イノベーションを興していくことが必要です。その意味で，今後，知財部門は，開発部門の成果の後始末的業務を着実に遂行するだけではなく，経営の視点を持って，新たなビジネスモデルを構築する推進力にならねばならないと考えています。そのためには，世の中の流れを俯瞰，予測し，自社のR&D戦略，経営戦略を熟知し，経営に物申すという気概を持って仕事に臨むことが重要だと思っています。そんなこと言っても，ハードルが高いよという声が聞こえてきそうですが，まず動いてみないと物事は前には進みません。アメリカの詩人エマーソンは，「思いは花であり，言葉は芽であり，行動はその後に実をつける」と言っています。思いを言葉にして行動されることを期待しています。

この2年間，皆様のお役に立てることはほとんどしてこなかった私ですが，皆様からは大変多くの示唆を頂戴しましたこと，心より感謝申し上げます。知的財産協会の益々のご発展と会員の皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。本当に有り難うございました。最後になりましたが，この度の震災にて被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げるとともに，復旧，復興が一日でも早くなされることを祈念して，退任の挨拶とさせていただきます。